



【解答】問題1（配点50点）

南家「まず、鳴こうが鳴くまいが  や  の中張牌の現物を切ろうと思っていました。なぜなら

アガリやテンパイまで遠く、ここから安全にテンパイにたどり着く可能性が低いことに加えて、西家が離れたラス目にも関わらずドラの東を最初に切っていることから、打点の確保されたリーチを打たれる可能性があり、ここからアガリやテンパイを見る進行は、西家リーチの際に手詰まりを起こす可能性が高い

からです。その上で鳴いた場合のデメリットとメリットを考えました。まずデメリットの1つ目です。鳴くことによって

14枚から安全牌を探すのではなく11枚から安全牌を探し続けなければならない

ので手詰まりを起こす可能性は高まります。とはいえ、

鳴くことによって消費する四も五も現状は安全牌ではなくオリて打つ牌でもない

ことからこのデメリットは比較的小さいと言えるでしょう。デメリットの2つ目は親のツモ番が増える可能性が高まることです。現状の海底は

南家

で鳴くことによって

西家

になります。親のツモ番が増えるにはさらにチーが

2回

入った場合ですが、

残っている役牌が発しかなく、西家北家ともに普通のシュンツで進行でホンイツやトイトイが考え辛く、ドラが2枚見えていること、を総合すると鳴いて高打点が見込めず、西家北家が鳴いてアガリに向かう可能性が少

ないという理由によりその可能性は少なく見積もっても良いでしょう。ですのでデメリット2つ目の親のツモ番が増える可能性も比較的小さいと言えます。これらに対してメリットが上回るかどうかですが、メリットの1つ目は一発ツモによる打点上昇を防げることです。一回のツモに対してしか意味がありませんが、リーチの手の内にドラが組み込まれていない可能性が高く着順取りの上でツモられた時の一翻の価値が大きいので通常時より一発消しのメリットが大きい局面だと言えます。ここままでメリットデメリットが同じくらいかなと感じていましたが、次にあげる他の鳴くメリットを考慮して結局鳴きました。

まず西家は離れたラス目にも関わらず最初にドラを切っています。ある程度打点は確保されていて、なおかつテンパイに近いはずですが。だとすると西家が安全牌を持っていないイーシャンテンの可能性はそこそこありそうです。その場合に一発目で危険牌を持ってきた場合ですが、

① 西家はその危険牌を切る場合でなおかつそれがリーチの当たり牌の場合
東家の打点が低い方が嬉しいので鳴くメリットがあります。

② 西家の押し引きバランスが一発が消えているかどうかによって変わる場合
西家にオリてほしくないの鳴くメリットがあります。

自分のアガリが見込めない以上、この局で最も嬉しい未来は西家が東家からアガることであり、ついで西家のツモアガリです。その可能性をなるべく消さない方が良く考えました。

【解答】 問題 2 (配点 50 点)

A ⑤⑥⑦

放銃する可能性がある牌：三四六七479

※単騎待ち・シャンポン待ちはありえないので白中は当たらない

※シャンポン待ちだとすると②④⑤⑥⑦⑦⑨中中XXから⑨を切っていることになりイーシャンテン時の受け入れ枚数を最大化していないことになる

B ⑦⑨

放銃する可能性がある牌：⑧

C ③④⑤⑥⑦

放銃する可能性がある牌：②⑤⑧

D ③

放銃する可能性がある牌：③

E ③③④⑤

放銃する可能性がある牌：③⑥

上記のどのパターンにも該当しない白中は安全度が高い。

以下、想定できないピンズの形 (記入されていれば減点)

×打⑨の際にテンパイを取っていないことになる形

⑧ (②④⑦⑧⑧⑨)

⑤⑥⑦⑧ (②④⑤⑥⑦⑦⑧⑨)

⑧⑧ (②④⑦⑧⑧⑨)

×打⑨が受け入れ枚数を減らしていることになる形

⑤⑤ (②④⑤⑤⑦⑨)

×打④の際にテンパイを取っていないことになる形

② (②②④④⑦)

⑤ (②④④⑤⑦)

⑥ (②④④⑥⑦)

③④ (②③④④④⑦)

④⑤ (②④④④⑤⑦)

②③④⑤ (②②③④④④⑤⑦)

×打④が受け入れ枚数を減らしていることになる形

ピンズなし (②④④⑦)

×④での自摸和了り拒否になる形

③④⑤⑥ (②③④④④⑤⑥⑦)

×打④が好形率を下げることになる形

⑥⑦ (②④④⑥⑦⑦)

×打⑦で待ち枚数を減らしていることになる形

⑥⑥ (⑥⑥⑦)